

(26) 焼成鉍中の4元系カルシウムフェライトの固溶状態と晶出過程  
(ペレットの高温還元性状改善に関する研究 第5報)

榑神戸製鋼所 浅田研究所 ○池田 孜 井上勝彦

1. 緒言 焼成鉍中の主要鉍物である calcium ferrite は,  $\text{CaO} \cdot \text{SiO}_2 - \text{CaO} \cdot 3(\text{Al}, \text{Fe})_2\text{O}_3$  間の組成を有する固溶体であること, またこの ferrite の生成条件及び高温還元性状との関係について第1報<sup>1)</sup>で報告した。ここでは合成4元系  $\text{CaO} - \text{SiO}_2 - \text{Al}_2\text{O}_3 - \text{Fe}_2\text{O}_3$  において平衡相関係を広範囲に調べ, 4元系 ferrite の固溶状態, 晶出過程及び結晶構造について検討した結果を報告する。

2. 実験結果 (1)固溶状態 4元系 calcium ferrite の  $1250^\circ\text{C}$  における組成域を図1に示す。組成は,  $\text{CaO} - \text{SiO}_2 - \text{Al}_2\text{O}_3 - \text{Fe}_2\text{O}_3$  4面体において  $\text{CaO} \cdot \text{SiO}_2, \text{CaO} \cdot 3\text{Fe}_2\text{O}_3, \text{CaO} \cdot 3\text{Al}_2\text{O}_3$  を端成分とする広範囲な面内にある。 $\text{CaO} \cdot \text{SiO}_2$  固溶限は  $0 - 25\text{mol}\%$  であり, 焼成鉍相当の  $\text{SiO}_2$  固溶度 ( $6 - 12.5\text{mol}\%$ ) を有する ferrite では, 約  $2\text{mol}\%$  の  $\text{CaO} \cdot 3\text{Al}_2\text{O}_3$  固溶度の下限が存在する。さらに  $\text{SiO}_2$ -poor ferrite では, この下限は高  $\text{Al}_2\text{O}_3$  側に移行する。

(2)晶出過程 出発組成  $m[\text{CS}] \cdot n[\text{C}(\text{A}, \text{F})_3]$ ,  $m/n = 0.35$  ( $\text{CaO}/\text{SiO}_2 = 3.58$ , 図中S) における4元系 ferrite 及び共存する融液組成の温度変化 ( $1250 - 1400^\circ\text{C}$ ) を図2に示す。この4元系 ferrite は hematite (H) と融液の包晶反応により晶出する。すなわち  $(\text{CaO} + \text{SiO}_2) - \text{Al}_2\text{O}_3 - \text{Fe}_2\text{O}_3$  parallel projection に示されるように出発組成(S)は hematite 初晶空間にあり, 冷却と共に H と S を結ぶ延長線上を動き,  $L_2$  で ferrite ( $F_4$ ) を晶出する。以降 ferrite は  $\text{Al}_2\text{O}_3$  固溶度を下げつつ S に向い, 融液組成は  $L_1$  に向う。

この  $L_1L_2$  線が hematite-ferrite phase boundary であり,  $\text{CaO} - \text{SiO}_2 - \text{Fe}_2\text{O}_3$  面とは交わらない。低  $\text{CaO}/\text{SiO}_2$  を有する平均組成では, この boundary は  $\text{Al}_2\text{O}_3$ -rich 側に移動し, ferrite の生成には高  $\text{Al}_2\text{O}_3$  組成を必要とする。

(3)結晶構造 この4元系 ferrite は  $\text{SiO}_2, \text{Al}_2\text{O}_3$  の広範囲な固溶体にかかわらず同一結晶構造で三斜晶系に属す。結晶データを以下に示す。

triclinic, space group  $\text{P}\bar{1}$   
 $a = 10.080\text{Å} \quad \alpha = 95.65^\circ$   
 $b = 10.660\text{Å} \quad \beta = 114.48^\circ$   
 $c = 9.111\text{Å} \quad \gamma = 64.25^\circ$

図2 合成4元系 ferrite 及び共存融液組成の温度変化 (S: 出発組成  $m[\text{CS}] \cdot n[\text{C}(\text{A}, \text{F})_3]$ ,  $m/n = 0.35$ )

参考文献 1)池田ら: 鉄と鋼 66(1980)S45

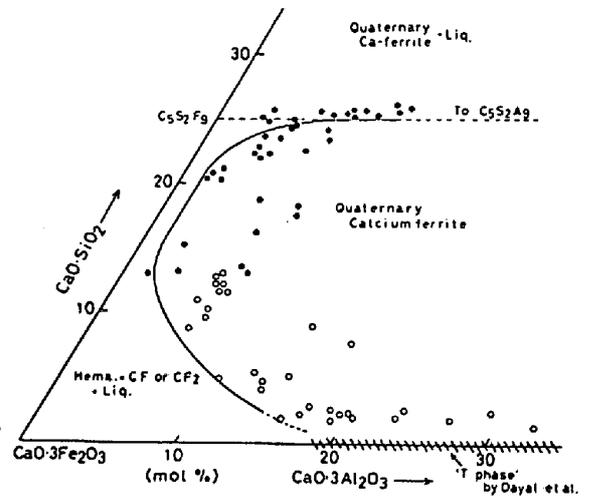


図1 合成4元系 ferrite の  $1250^\circ\text{C}$  における組成域 (● 焼結鉍相当組成, ○ 高  $\text{Al}_2\text{O}_3$  高  $\text{CaO}/\text{SiO}_2$  組成から生成する ferrite)

